



完成した現代版の岐阜市史を紹介する富樫幸一委員長(右)＝同市役所

岐阜市史に現代版

市が発刊 市政や経済など主題

40年間の歩み詳しく

岐阜市は、市史現代版を発刊した。主に1975(昭和50)年以降にあった市の歴史をまとめた。市民の暮らしやまちづくりを軸に、約40年間の市の動きや変化を網羅している。

通史編と、史料編第2、第3巻を作成した。史料編第1巻は、おとしに発刊していた。これで、2012年から進めてきた市史編さん事業を終えた。

通史編では、市政や合併した旧柳津町の歩みを紹

介。市政や住民活動に関わる大学教授や元市職員らが「地域のくらしと経済」「市民役割のまちづくり」などを主題に、柳ヶ瀬の浮き沈みやまちづくりの移り変わりなどを記録した。市民のコラムも盛り込み、時代の変化を記した。

史料編第2巻は年表や文化財、市民団体などを掲載した。第3巻には市民から募った明治以降の写真479点を載せ、6枚組のDVDに市政広報番組などの映

像を収めた。市史編さん専門委員会委員長の富樫幸一岐阜大地域科学部教授は「市史で市民の歩みや、まちづくりをまとめたのは画期的。この40年間、平成に何があったかよく分かる内容だと思っ」と説明する。

いづれもA4サイズでオールカラー。通史編上下巻

は3千円、史料編第2巻は2200円、同第3巻は2900円。各2千部を発行した。小中学校や公民館などに配布・寄贈し、一般向けには15日から市役所南庁舎や市中央図書館(同市司町)などで販売する。問い合わせは市教育委員会社会教育課、電話058(214)7157。(青山和史)



ら児童新入学を渡る歩断横を